英語科研究協議会報告

記録　佐　藤　美和子

アクティブラーニングを活用したキャリア教育の実践

授業者より
本日は指導要領にあるように、読みとった情報を他の生徒に伝えること、サマリーを伝えるよりも達成させたいものを明確化のため、事実や意見を明確にする。
英語でも国語でもやらせてない活動ではあるが、生徒にとっては活動が多すぎたようにも思える。生徒の発話量増加、他のグループでの助け合い、共同学習などねらいとし、生徒には課題発見能力を身につけさせたいと思い今回の授業を実施した。

参観者より
良かった点
・指示：今何をしなければいけないか、何分かなど指示がわかりやすかった、板書内容の補助的役割を果たしていた。そのため、生徒もよく指示を聞いていた
　日本語と英語でのメリハリをつけた指示、常に笑顔で励まし、褒めている
　力のなさそうな生徒でも努力し、生徒間の助け合いもあった
・授業構成・活用
・ほかのグループの活動を確認するなどの FD
・プロジェクター、タイマー　Authentic English 授業のサポート
　タイマーが大きく見やすいと生徒も頑張りやすい、スポーツ観戦をしているようでわくわくする、プロジェクターを使用することで、次になにがくるかわからず楽しい
・生徒の発表の機会は多い、聞く、発表の姿勢や努力することが身についていて、英語で話し合う生徒が多くいた
・アクティブ、誰もが話しやすい雰囲気

今後の課題
・準備が大変
・キャリア教育をアクティブラーニングにどう活かしていくか
　教科書の題材で生きていく力は限界がある。掘り下げていくより外に広げていく手法が必要
・プロジェクターが斜めだったり、台車の傾きなどが気になる。また、光の当たり具合で見えない座席がある
・生徒による指示の勘違いがある
・HG 内でのストーリの完成はしていても、FD の時間、英作文、確認の時間の確保が必要だ
・インプット、インテイクがなければ自身の言葉で説明は難しい
・クラスのレベルに合わせれば日本語でもいいのではないか
・生徒は今日の授業で何ができるようになったのか、不明確
・授業で何を習得するかを考える必要があるのではないか